

会議議事録（要旨）

会議の名称	令和6年度 第2回鳥取市地域福祉計画・地域福祉活動計画 作成委員会（①住民参加と地域福祉活動の促進に関する専門部会）
開催日時	令和6年7月22日（月）9：00～11：30
開催場所	鳥取市役所本庁舎 6-5・6-6会議室
出席者氏名	別紙（委員名簿）
欠席者氏名	清水委員
事務局職員氏名	山内地域福祉課長、大島地域福祉課参事、清水地域福祉課課長補佐、西谷地域福祉課主幹、川口中央人権福祉センター所長、増田長寿社会課課長補佐、山根中央包括支援センター主査、林協働推進課係長、（以上、鳥取市）松本地域福祉課長、城野地域支え合い支援課長、株本地域支え合い支援課主査（以上、鳥取市社会福祉協議会事務局）
会議次第	1 開 会 2 地域福祉課長あいさつ 3 新委員紹介 4 議 事 (1) アンケート調査結果から見る課題の整理（資料1） (2) 地域福祉活動団体・支援機関の主な意見から見る課題の整理（資料2） (3) 重点取組に対する取り組み状況・成果・課題等について（資料3） 5 その他 6 閉 会
配付資料	資料1 《地域福祉に関する意識調査の結果（概要）》（補足） 資料2 地域福祉活動団体・支援機関の主な意見（まとめ） 資料3 意見交換用参考資料（鳥取市版・鳥取市社協版） 参考資料 計画の基本的な考え方 その他 次第、委員名簿

議事内容（要旨）	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・開会 ・課長挨拶 ・新委員紹介（森田委員）
事務局 （進行）	議事に入ります。まずは(1)アンケート調査結果から見る課題の整理（資料1）(2)地域福祉活動団体・支援機関の主な意見から見る課題の整理（資料2）について説明をお願いします。
事務局	資料1、資料2及び参考資料の説明
事務局	只今の説明についてご意見やご質問等あればお願いします。

(進行)	
I 委員	<p>新任委員なので、過去の議論や前提条件などがわからないので質問します。質問が二つありまして、一つ目が基本的な地域課題がある中で、方向性としては、自治会や公民館の機能を高めていくという前提で計画を検討していくのかということと、もう一つですが、分科会が三つありますけど、三つの役割分担がかぶっている部分があるような気がしてよくわからないのですが、そこをどういう整理で考えられているのかを始めに少し共通認識させていただきたいので教えてください。</p>
事務局	<p>まず一つ目の質問ですが、いわゆる自治会とか公民館の機能は非常に重要な部分だろうと思います。まず、今の現計画におきましてもいわゆる地域福祉のネットワークを地区単位で構築しないといけないということを一番の目標として掲げておりました。実際にそれはこの6年間の中で、どう変わってきたのかをまずは検証する必要があると思います。</p> <p>鳥取市としても、自治会の加入率がどんどん低下している問題であるとか、公民館の機能をこれから見直ししていくということで、実際に公民館については条例改正等も行いましたが、なかなか思ったようには進んでいないというのも正直なところでございます。ですので、この地域福祉を進めるうえでは、そういった自治会や公民館機能など、市民との協働によるまちづくりということが非常に大きな視点だろうというふうに思っておりますので、このたびの計画の中では、そういったことをどこまで踏み込んでいけるのか、それぞれ庁内関係課で、協議していく必要があるかと思っております。</p> <p>あと、三つの分科会の役割分担ですが、基本目標1を最近我々は一丁目一番地と言っているのですが、この部分は全ての分科会に通じる大変重要な箇所となります。ここがあって、その中で基本目標の2と3に繋がっていくということで、実際にいろんな事業の振り返りとか評価をするうえで、関連性は強く感じております。委員さんの所属によって個々の専門的な意見を伺うような分類には少しなっていない部分もありますが、少人数で忌憚のない意見を伺いたいという観点から三つの部会に分けさせてもらっています。本日出た意見などは、次に行われる第二、第三の分科会にも共有させていただきます。</p>
D 委員	<p>アンケートを見ても、このまとめを読ませてもらってもやはり課題は大きいと言わざるを得ないのですが、概ね共通する課題として、いろんな地域団体の会員の減少だとか或いは自治会におかれましては、加入率の減少、民生委員さんにおかれましては、担い手がいなくなっています。そういう問題プラス、高齢化ということもあり、代替わりがなかなかできない、役員、担い手がいないと、どこも概ね共通してしまっていて、結果として活動が停滞化する、マンネリ化するという問題や状況が生じています。そして、そうなってくるとどうやって活動を持続させていくのかという、持続可能性の問題も出てきています。6年前よりもさらに顕著になってきたという印象を持たせていただきました。ということで、課題とすれば、やはり新たな担い手づくりということをお早急に取り組まないといけませんし、さらにその持続可能性ということにも焦点を当てないといけないと思います。</p>

今のような、地域団体、地域組織のあり方では、マンネリ状態が続くことになって、やがて先細って無くなってしまおうということになってしまおうのではなかろうかと思います。だから今こそ、その地域組織のあり方というのを大胆に見直していかないといけないのではないかと思います。

本当に地域のカテゴリでいろんな団体がいろんな活動をやっているのですが、結構充て職的にどこの地域も無理やり人を当てはめて活動をやっているところが多く、それでいいのかということのを改めて問題視していかないといけないのではと感じています。

地域の中で必要性というところであれば優先順位が異なってくる可能性がありますので、地域の中で判断して重複している機能は整理統合していく必要があるのではと改めて感じました。

一方で、高齢化等で地域福祉の意識、関心というのは高いなという印象も持たせていただいています。認知症の当事者の方とお話すると、当事者自身ももっと社会に参加したいという意識を非常に強く持っておられて、地域活動や或いは就労への参加について私たちの可能性を見て欲しいという、そういうメッセージを強く承りました。そういう意味では、その当事者の活躍支援という、地域共生社会にもうたわれていますが、当事者の力を地域の中でどういうふうに活かしていけるのかというテーマにもっと深く我々は関わっていかないといけないなと。そのための受け皿となる場所、ネットワークを地域の中で作り出していないといけないなというふうに改めて感じました。

一方、地域の皆さんにとってみると、防災や、高齢者の見守り支援というところに関してはすごく意識が高いということも改めて感じました。特に自治連合会の方では、防災そして高齢者の支援というところに私たちは関わりたいが、その流れがうまく掴めないし、どうやっていいのかわからない。気持ちはあるのだが、どうしていいのかわからないといったお声も聞かせていただいています。

アンケートを見ても、7割ぐらいの方が福祉に関心があるのに具体的にどういうふうに取り組んでいったらいいのかわからないというようなどころが見えてきますので、そういった思いをうまく組織、組織活動に結びつけられるような流れを作っていくこと、これが今回の計画で非常に重要になってくるのだなと改めて感じました。

一方、意識は高いがどうしていいかわからないという部分には、やはり情報という問題、個人情報という問題が強く関わっているなという印象も持ちました。とりわけ、行政と民生委員さんとの情報共有にも少し齟齬が出ていまして、例えば子どもさんの問題で、少し家庭での養育環境が厳しいという、そういう家庭は結構ありますが、そうした情報が、民生委員さんに共有されていないので、具体的な支援につなげることが難しい、できないという声があったりします。

或いは避難行動要支援者に関しては、同意のない方の情報が地域で把握できないという傾向がありまして、そういった方々をどうやって把握していけばいいのかという、そういう問題も非常に深刻化しているのかなと思います。これまで以上に、課題を抱えている方々をどうやって地域で発見し、そして支援につなげていくのかという部分が、課題として問われているなという印象を持ちました。

	<p>また一方で、新たな居場所、新たな活躍の場として地域食堂がすごく機能しているという情報もありました。ただ、地域食堂はいろいろなパターンがありますけれども、従来の地域福祉、要するに自治会とか民生委員さんとか地区社協さんとかというルートとは違う別ルートでやっておられるところも少なからずあるわけで、そうすると、新たな居場所、活躍の場としては機能しているかもですが、地域とのネットワークという意味では非常に薄いというところも多々あるのかなという感じがしました。そういう意味で今後は、地域との連携、地域団体との連携ネットワークづくりというところがすごく重要なポイントになってくるのだろうなと感じています。</p> <p>あわせて、地域食堂はこれまでにない連携というのをつくり出しています。例えば学校との連携、或いは企業さんとの連携とかですね。従来、福祉との連携が薄かったところとの連携が、子どもの食というものを通じてネットワークが広がる傾向にありまして、これは地域のプラットフォームづくりという観点がありますけれども、その地域の中でのプラットフォームを作っているいろんな方々に参加してもらって、我が事丸ごとの地域社会を作っていくという観点において、地域食堂はすごく有効なツールであるなという印象を持ちました。</p> <p>従って、この地域食堂を次の機能強化の形でどういうふうに描いていくのか。地区、地域との連携、企業さん等々、幅広い連携をどういうふうにデザインし実現していくのか。これはすごく大きなテーマになるなということを感じました。</p> <p>大まかにですが、アンケート、そしてこれまでのヒアリングを踏まえて感じたところをお話しました。以上です。</p>
事務局 (進行)	それでは、次に(3)重点取組に対する取り組み状況・成果・課題等について(資料3)について説明をお願いします。
事務局	資料3の説明
事務局 (進行)	只今の説明についてご意見やご質問等あればお願いします。
M委員	<p>まず1点目ですが、鳥取市地域福祉計画の基本的な考え方で説明された参考資料の4ページ目の図ですが、ものすごく違和感があるなと思いながら見ていました。先ほど、説明を受けた中で、図の真ん中が主体とか核になり、プラットフォームになるのは、当然それでいいのだろうと思うのですが、周りの各種協力団体とか、団体の力不足を先ほどから言われているように、どのようにてこ入れしていくのか。ここができないと図の真ん中のような形は絶対できないと思います。</p> <p>現実的に、私はこの図でいう周りの各種協力団体の役を複数1人で担っているというところもありますが、私が辞めたら次がおらんという現状があります。やはり後継者不足という問題は大きくあると思います。</p> <p>町内を1つ見渡しても、町内会に加入しているのが大体6割から7割くらいしかありません。ところによると、もう4割しかないというところもあります。そうすると、あとの6割はどうするのか。町内会長にお願いするというような問題ではないと思います。それから、地域によっては、町内会に属さない人を見るのは、民生委員だという決め方をしているところもありますが、民生委員にも力の</p>

	<p>限りはありますし、人手が不足しています。町内会はじめ色々な団体が不足して いてなり手がいない。だんだんと仕事が多くなってきたというのもありますし、 問題を抱えている家庭が増え、世帯が複雑化しているというのもあります。</p> <p>それから、個人を尊重するあまり、踏み込めないというところもあります。ま ずこういうボランティアとか福祉の関係の人は、多分そこが出来ていなかった。 だからそのところをしっかりとフォローして欲しいと思います。</p> <p>例を挙げますと、今鳥取市がしている孤独孤立のつながりサポーターと、市社 協には一生懸命言っているのですが、となり組福祉員や愛の訪問協力員との整合 性を作っていないと、2階の上に3階を作って3階の上に屋上を作ってみたい なことをやっても意味がないので、きちんと役割というか、整合性を整理し て欲しいと思います。</p>
I 委員	<p>資料が初見だったので、見させていただいて、正直わからないところがあるの ですが、この活動が何に効いていて、この活動は誰に対して何をやるものなのか。 先ほどM委員がおっしゃったのと重なっていると思うのですが、それが見えない、 わからないので少し重複している機能があるのではないかとこのところが正直わ かりませんでした。どれが何の機能であって、それをすることによって全体にど ういう影響があるのか、繋がりがいいのか、よく戦略マップとか言うのですが、 これが変わると何が変わって何が変わると最終的に何か解決される。というも のが見えづらくその辺り、少しわかりづらかったという感想です。</p> <p>弊社も学習支援であったり、地域の公民館に出向いて出前授業として困りごと の説明会であったり、研修会などをさせていただいたりして、これを1歩進 めようと思っていまして、取引業者さんと一緒にそういう活動をしませんかと投 げかけようと今やっているところですが、この計画でやられている活動と、どう せやるなら一緒にやった方が効果的なのではというふうに感じました。多分、弊 社だけではなく他の民間企業さんでも、代わりにやっているというか手を上げら れているところもあるのではないかと思います。</p>
事務局	<p>それぞれがそれぞれの様々な事業を進められているところを一緒に横並びに できて、進めていけたらというようなお話だったかなと思います。</p> <p>やはりそれぞれが取り組まれているところをお互いに情報収集しながら連携を 深めていくべきだと思いますし、それぞれの目的に沿って平時から関係性を作り 上げていくものなのだろうなというふうに思っております。</p> <p>先ほど戦略マップというお話がありましたが、何がどういうふうに繋がって いくかというのをもう少し、見える化をして連携の部分を考えていかないといけ ないのかなというふうに思っております。それぞれのやっている事業が、どうい うふうに効果を予想して、どういうふうにしていけるのかという部分は整理をし ていかないといけない部分だと思います。</p> <p>それとつながりサポーターと、となり組福祉員とのいわゆる関係の部分の住み 分けは中央人権センターと話をしながら検討していく必要があるのかなと感じ ています。</p>
事務局	<p>となり組福祉員さんと、つながりサポーターは似ているようで似ていない部分 がありまして、基本的なところでいいますと、となり組福祉員さんは任命制で、</p>

	<p>ある程度の責任を持っていただいて、見守りも継続的にやっていただくというイメージを持っています。一方、つながりサポーターはそれよりももう少し軽い感じで、任命制ではなくて自発的になりたい方が受けていただいて登録いただくというスタンスになっています。役割もただ1つで、困りごとに気づいた時につなげてもらう。そこだけですので、今のところそういった内容で養成させていただいております。</p> <p>ただ、せっかく繋がったつながりサポーターの皆さんですので、今後は地域の中でもいろいろ、動いていただけるとありがたいなということで、今年度は少し試験的に、地域での展開を考えていこうと今、いろんな活動を企画しておりますので、その中でまた社協さんとも意見交換をさせていただきながら、ここは組み合わせる、ここはそうじゃないといういろいろ整理していきたいと考えています。</p>
M委員	<p>先ほどの参考資料4ページ目の図面や福祉計画自体が、住民に周知徹底できていないと感じています。知らないから自分たちがどの立場なのか立ち位置がわからないのだらうと思います。</p> <p>今はもう町内会も形骸化してきているというのが大きなネックになってきています。例えば、町内会長は、1年、2年したら交代、それも順番で回る、長い間役をするという時代ではなくなってきたというのは1つあると思います。</p> <p>それから、町内会に属さなくても生活をしていけるようになったというのがあります。ただ、いざという時に町内会に属していないと、どのぐらいのリスクがあるのかということ、少し住民にと言いますか、市民に明らかにした方がいいのではないかと思います。</p> <p>いわゆる今、個人のことや個々の考え方を大事にするということは良いと思うのですが、いざ災害になったときに、自分1人だけになるリスクもあることをしっかりと明らかにしてあげるのは、行政としての役目かなと思います。</p> <p>そうすれば自然に、地域とのつながりを大事にしないといけないと感じる人が増えると思います。それでも、嫌だという人は仕方ありませんが、本当にリスクの面をしっかりと明らかにしてあげるのがいいのかなと思います。</p> <p>それから、となり組福祉員の話がありましたが、となり組福祉員も形骸化しています。今はなり手がなくて1年とか2年お願いしてなんとかなっていますが、それでは多分今後やっていけなくなるというよりも、責任を果たせなくなるのではないかと考えています。この愛の訪問協力員やとなり組福祉員については、役割をもう少し軽減するとか、しっかりと説明していくとか、納得してもらおうとかをきちんとやっていかないといけないのではと思います。</p> <p>もう今はなんでもかんでも形骸化になってきています。隣にどんな人が住んでいるかも知らない時代になってきているので、やはりそのあたり、行政としての指導ないし、各関係機関との連携を図って欲しいなと思います。</p>
S委員	<p>田舎の方はそうは言いながらも町内会の加入率が高い方だと思うのですが、旧市内とか、アパートやマンションでは町内会への加入率が少ないと思います。</p> <p>この前、町内会に加入していなくてもごみステーションを使えるような判決が裁判所が出たらしいです。本来でしたら、ごみステーションを使いたいから町内会に入ろうかという風に持って行って欲しかったらいいのですが、町内会に加入しな</p>

	<p>くても幾らかお金を払えば使えるようになってしまうと町内会に加入をしてくださいというのが、ますます難しいような状況になってしまうなど感じました。</p> <p>田舎の方は、9割、9割5分加入があるのでいいですが、旧市内とか、アパートやマンションでは多分役員さん大変だと思います。自治連合会でも町内会加入者を増やそうというところで、加入促進部会というのがあって、いろいろと勉強するのですが、加入促進はなかなか難しいところがあるようです。</p>
N委員	<p>私も 5、6 年前だと思いますが自分の地域で区長をやっていた時期がありまして、初めてそういう立場になって前の区長から引き継ぎを受けたのですが、役員としてその年に行う役割の中に、となり組福祉員だとか、色々福祉に関する役割がありました。きちんと引継ぎを受けていなかったことや自分が知らないということもあるのですが、実際何これって思いました。どういう役割を果たしたらいいのかわからず、役を受けてくれる他の役員もいなくて、申し訳ないですけどその時は、うまく機能を果たせないまま 1 年間終わってしまったという事がありました。</p> <p>それから当時は地区社協さんが配食サービスをやっていたりして、利用促進なんかでお手伝いできれば良かったのですが、誰がそれを利用しているのかもよくわからないうちに、途中でその高齢者がお亡くなりになられて、結局うちの地区は 1 つもなくなったなんていうようなこともありました。</p> <p>当時は、町内会役員の福祉に関するやることの多さについて、負担にしか感じなかったというのが正直なところでした。</p>
D委員	<p>皆さんから参考資料の 4 ページ目の図に関して、結構意見が出ていましたので、少しこれについて触れておきたいと思います。この図を作った経緯ですが、この図について各地区で考えて欲しいという意図で作成しております。</p> <p>この図は、各地区の中で、どういう組織体制を作っていけばいいのかというのを根本から考えていくための仕掛けとしての図であって、これを使ってどんどん地域に出ていって皆さんで議論をしてほしいというのが本来の形であったわけです。しかし、それができなかったで、ほとんどの住民の皆さんがこれを知らないのは当然の話となります。</p> <p>ただ今回の新しい計画では、やはりこの部分を本気で考えないとまずいのではないかなと私自身すごく思っています。冒頭申し上げた通り、それぞれの各種団体が、形骸化してきていて、本当に持続可能性が問われる時代になってくる中で、要るものと要らないものを、思い切ってこの際見直さないはずだろうと思っています。それは、あえて言いますが、例えば地区社協いますか？となり組福祉員さんいますか？ということです。地域によっては実際になくとも回っている地域があるわけで、そういうことも考えると新しい福祉の仕組みというものにこれからどんどん作り変えていかないといけないのではと感じています。</p> <p>一方で、課題として支援を必要とする人は沢山いらっしゃるわけで、そういう方々にきちんと支援が届く仕組みの改正というものを今一度これから、この次の 20 年 30 年を見据えて作っていかないといけないと思っています。これまでやってきたことを踏まえつつも、新たなチャレンジをしていかなければならない、そ</p>

ういうふうを考えるための図だと思っています。

そのためには、ここはやはり行政が力を発揮していただかないといけない部分であって、先ほど地区社協の話为例にとりましたが、一方でまちづくり協議会があったり自治連合会があったりとか、地域を束ねるような組織は幾つもあるわけです。地区社協もそういった性格を持っている組織なわけですが、今はそれぞれの組織が何をやったらいいのだろうということ、私の目から見ると十分に機能してないように感じています。

コミュニティセンター化という形で、地区公民館が新しく自主的な活動、営利活動を含めてできるように状況が変わってきているのに、それを担える団体がいない、そこがすごく大きな問題で、コミュニティセンター化するのであれば、それを誰がどのように担うのかということと同時に考えていかないとはいけません。

その際に、地域課題の多くは福祉と大きく関係しているわけで、やはり福祉がベースとなって、コミュニティセンターをどう運営していくのかということを考える必要があります。その中で、これまでの既存の組織のあり方というものをもう一度見直して行って、これからの時代、これだけ担い手がいない中で、この機能とこの機能はもう統合したほうがいいのか、ある意味ポジティブな見直し議論をしていかないとはいけないだろうと思っています。これは1年2年で答えが出るような問題ではないと思っているので、今回の計画の中で、本気で行政の内部で、教育委員会や企画、そして福祉等々関係部門がしっかりと議論して答えを出し、地域の皆さんと対話しながら、1つ1つのコミュニティセンターが本当に機能するような形、基盤を作っていくような方向性を示して欲しいし、その答えを出して欲しいと願っています。

そこで、とても大事になってくるであろうというところで、社協さんの方の評価を見てみるとボトルネックになっているものの1つとして、コーディネーターの存在があって、実は常設型サロンを作るにしても、地区の相談窓口を作るにしても、そういったことを担っていただけるキーパーソンとして、コーディネーターが必要だと思っています。つまりコーディネーターが置かれない以上は、常設型サロンもできないし、地区相談窓口もつけれないというボトルネックになるわけで、新しい組織を検討しつつ、その組織を動かしていく1つのかねめの人材としてコーディネーターさんを位置付けていくということがとても大事だろうなというふうに思いますし、そういう存在をしっかりと形づくるためのモデル事業をやっていただきたいと思っています。

今のモデル事業というのは、今の既存の仕組みを寄せ集めてモデル事業としてやっているように見えるのですが、そうではなく新しい組織の形、活動の形をデザインしていくモデル事業をつくらないといけないと思います。もちろんその社協さんがやってらっしゃる三場の取り組みも意味がないわけではないのですが、それが新しい組織づくりのデザインと繋がっていないということが大きな問題だと考えます。既存の組織体制を使って、それを何とか寄せ集めて、今までの機能を連携した形でバージョンアップしていこうという試みになるので、それぞれが機能不全に陥ってしまったら、幾らモデル事業をやってもそれは後で息が

途絶えてくるわけで、本当に持続可能な活動、地域をつくっていくためにはやはり、根本から見直しができないといけないだろうというのが私の問題認識です。

それはやはり行政がしっかりと取り組んでいかないとけないし、その際に社協さんもしっかり協議の場に入っていくって、どういうふうな担い手づくりをすればその組織が持続可能になっていくのかというところを、一緒になってデザインしていくって欲しいと思います。

よくコミュニティセンターを議論していく中で、社協さんが入らせてもらえないということがよくあって、これは他の地域もそうなのですが、もうそうになってしまうと後から社協さんが幾ら入ろうと思ってもなかなか関わりづらくなってしまいますので、社協さんも含めてどういうふうな地域づくりをしていくのかということのをこれからしっかりと議論して欲しいなと思います。そう思うと、行政内部の壁は依然として高いというふうに私は言わざるを得ません。

やはりそこをうまく庁内連携をして、同じ方向に持っていくような形でしっかり作っていただきたいなと思いますし、地域の方々ともしっかりと膝を突き合わせて議論していくということを必ずやらないとうまくいかないと思います。本当に急がば回れだと思います。

20年30年先の地域福祉を見るうえで、今、組織づくりをやらないとまずいだろうなと強く思います。そのうえで、やはりコーディネーターの配置というのはお金がかかることではありますけれども、しっかりと育成して、しっかりと配置すれば、必ず成果が出るものでもあるので、そのあたりもしっかりとご留意いただきたいなというふうに思いました。

あと、相談機能のところ少し申し上げたかったのは、地区の相談体制というところを考えていくときに、今の書き方だと、行政も社協も待ちの相談、来てくださいという相談になっています。相談に来ていただく窓口はもちろんあって良いのですが、本当はそこでいう相談というのは、来てくださいではなく、情報をくださいということなのです。アウトリーチをするための情報をくださいという相談なのです。

先ほどつながりサポーターの話がありましたけど、気づいてつなげてくださいということです。だからまさにつながりサポーターという要素を今やっているのであれば、それが機能して地区の相談窓口情報が入ってきて、まずは、住民の中で例えばコーディネーターさんのところに情報が入ってきて、あそこでちょっと気になる人がいるよ、ちょっと行ってみようか、これはちょっと住民レベルでは難しいなあとかいう話になったときに、相談センターなり、或いは社協さんなり、或いは人権福祉センターなりという形でしかるべきところに情報が入っていくということがとても重要であって、要するに、課題を掘り起こすための相談なわけで、その機能を作らないといけないことが書かれていないのに対して、少しあれっという感じを持ちました。

前回の計画を作った時もそういうふうに、要するにアウトリーチしないといけないが、アウトリーチ先がわからないからこそ情報が欲しいという形での地区相談窓口だったのです。その辺りを少し意識した書き方に直して欲しいなと思います。地域包括支援センターや、地域福祉相談センターというのは、そこは待ちの

相談窓口でないと仕方がないわけで、地区の相談窓口の機能とは少し違うというところを十分意識しておく必要があろうかと思えます。

あと連携の相手として、スクールソーシャルワーカーさんが出ていないので少し気になりました。特に子どもの貧困、子どもの不登校とかいじめだとか、子どもに関わる問題に関しては、学校との連携がすごく重要になってくるのですが、まだまだ連携がうまくいっていないこともあります。

その中で福祉と教育の橋をうまくかけてくれる存在として、スクールソーシャルワーカーさんがいるので、そのスクールソーシャルワーカーさんの思いを受けとめつつ、最大限機能がうまく発揮できるような体制を作る必要があろうかと思っています。もっともっと私はスクールソーシャルワーカーに光を当てていいのではないかと思っています。

そうすると、学校の中で孤立しているとか、いじめられているだとか、或いは貧困でもしかしてというような状況を抱えている方と、地域食堂等を結びつけたり、或いは相談機能のところにうまく結びつけたりすると、世代の課題がパーッと一気に明らかになって行き、早期発見早期対応できるとかというふうな機能向上にもなっていくだろうと思いました。

あと、プラットフォームのお話ですが、福祉学習プラットフォームというのは、まだ少し漠然としていてイメージが湧かないところが多いと思うのですが、まず福祉学習を外してプラットフォームという意識を持っていただきたいと思えます。なぜプラットフォームが大事なのかというところですが、例えば認知症の方とか障がい者の方々というのはこれまで、地域の中で肩をすぼめて生きて行かざるを得なかった。

この間、認知症の方と直接お話をしましたけれども、私たちはこれまで認知症を隠していかないといけないという思いで、ずっと生きてこられたそうです。障がい者の方も基本的にそうだと思います。

ただ、今、地域共生社会が問うていることは真逆です。彼らこそが地域の中に参加して活躍できる、そういう時代を作っていないといけないのだということを行っているわけです。そうすると、まさに当事者の方を受けとめて、そしてその方々が活躍できるような地域や共生社会を作っていく、その活躍の場を誰が提供できるのかという中に、従来の福祉的な活躍の場では駄目なのだと思います。

社会の中で、まさに今、地域で頑張っておられる商店さんとか、企業さんとか福祉法人さんとか、そういうところが、認知症の方でも得意なことを持っているのであれば、うちに来てくださいみたいな感じで活躍の場を提供することが必要だと思います。東京の町田での例をご紹介しますと、洗車することが大好きな認知症の方がおられて、ホンダのディーラーさんが、それだったらうちの車を洗ってくださいということで、活躍の場を提供されたとかそういう話があるわけです。

その他にも、認知症の方々が活躍していただけるような色々な場づくりをしていこうという動きが全国に広がっているわけですが、併せて障がい者の方の活躍の場づくりをしていこうと思ったら、地域丸ごとのネットワークを作らないといけないわけで、いきなりプラットフォームというところに来てください、そして話し合おうと言っても、そんな簡単にはできないわけです。

	<p>まずは学びましょうというところから、当事者参加の福祉学習のプラットフォームを作る。そうするとそこで当事者の方のお話を聞きながら、こういう方々だったらうちで活躍の場や居場所を提供できそうだな。じゃ、一度来てみますかというような形で、学びながら次の居場所、活躍の場づくりを進めていけるのだと思います。そういう仕掛けを考えていくのも、福祉学習プラットフォームということなのだと思います。</p> <p>一緒に考えて行って、例えば当事者のAさんだったら、こういうことでいいのではないか、このAさんが持っている力は、こういうふうに生かせるのではないかということを、みんなで議論しながら、じゃあ一度試しにやってみましょうかというような動きがくれるその仕掛けとしてのネットワークが大事で、それが要するに学びのプラットフォームから、実践のプラットフォームへと繋がるわけで、そういう仕掛けだということを、ぜひご理解いただきたいなと思います。だからこそ、このプラットフォームという概念は、すごく大事なのだと思います。</p> <p>近年そのあたりのことが、形としてできつつあるのが地域食堂なのかなというふうに思っています。地域食堂に色々な企業さんが関わっていく中で、課題を抱えた人たちが、自分の力をどのような形で発揮しようかという時に、関わってくださる企業さんたちも集まって、一緒にやって考えていけば、福祉関係のプラットフォームとして機能し、そして活躍の場づくりにも繋がっていく、今そういうところまで徐々にきているなという感じを持っています。ですから、そういうところも次の計画で、バージョンアップのための1つのテーマとして、取り入れて行っているのではないかなと感じています。</p>
M委員	<p>本日の資料でも、確定ではないと言いながら地域コミュニティの拠点として、地区公民館が出ていますが、次期地域福祉計画の中で、地区公民館の位置付けというものをしっかり検討していただき、次は明示していただきたい。</p>
	意見交換終了
事務局	<p>(事務連絡)</p> <p>今回の委員会ですが、今回同様、専門部会形式での開催を予定しております。開催日程を次第の下の方に書いておりますが、この第1専門部会につきましては、8月29日木曜日の9時30分からということで予定をしておりますので、ぜひご出席いただきますようよろしくお願いいたします。</p> <p>場所は、本日と同様で、6-5・6-6会議室を予定しております。また改めて正式に通知等でお知らせしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>そうしましたら長時間にわたりまして、ありがとうございました。</p>